

提出 2012 年 2 月 21 日

会合議事録

研究会名：X 線スペクトロスコープ利用研究会

日 時：2012 年 1 月 13 日 15:00~16:30

場 所：キャンパスイノベーションセンター（東京都港区田町）

出席者：(研究会メンバー) 奥村 和、久保田岳志、山本 孝、谷田 肇

その他に、メンバー以外の出席者約 27 名

計約 30 名

プログラム

1. 施設紹介

SPring-8 における X 線スペクトロスコープのビームラインの現状

宇留賀朋哉 (JASRI/SPring-8)

2. 依頼講演

XAFS 分光法を用いた均一系酸化反応における Pd/Cu 触媒系の局所構造・電子構造解析

奥岡晋一 ((株)日本触媒)

3. 依頼講演

XAFS による水素化脱硫触媒活性構造の in-situ キャラクターゼーション

久保田岳志 (島根大学)

4. 各講演後での会場からの質問と議論

講演内容と質疑など

1. 宇留賀氏は、BL01B1、BL14B2、BL28B2、BL37XU、BL40XU などの X 線スペクトロスコープの関係のビームラインの現状、将来計画、課題採択率などについて紹介があった。特にマイクロビームを使ったビームラインについて詳しく説明して頂いた。将来計画の内容や、研萌芽的究支援の申請書に関する質問があった。
2. 奥岡氏には、Wacker 型の均一系酸化反応における Pd/Cu 触媒系についてご講演頂いた。XAFS 測定で得られた知見をどのように生かすか、といった内容について質問があった。
3. 久保田氏には水素化脱硫触媒活性構造の in-situ キャラクターゼーションについてご講演頂いた。セルの設計、窓材の選択や Co-Mo 触媒の解釈について質疑応答がなされた。

まとめ

今回は、前日（1月12日）から当日（1月13日）の 14:30 までに行われた SPring-8 講習会「産業利用に役立つ XAFS による先端材料の局所状態解析 2011」に引き続いて、この X 線スペクトロスコープ利用研究会を開催したものである。メンバーの主席者は少なかったものの、講習会に出席した方々のうち半数程度の方が引き続き研究会に参加して下さったため、30 名の参加者で研究会を行うことができた。宇留賀氏の講演では SPring-8 の各ビームラインの現状や課題申請の方法、将来計画などについて理解して頂けたようである。奥岡氏および久保田氏による講演でも活発な議論を頂き、触媒研究における XAFS の重要性について認識して頂くことができた。